

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

ナシ黒星病の秋季防除対策（技術情報8号）について（送付）

来春の黒星病の発生を予防するため、秋季防除等の対策について取りまとめましたので、ご活用下さい。

## 記

近年黒星病の発生が多い傾向が続いており、翌年も発生が懸念されます。来春の感染予防のため、秋季防除を徹底し、越冬伝染源を無くしましょう。

### 1 発生状況

- 1) 本年のナシ黒星病の巡回調査における発生量は、5月が平年比やや多、6月が平年並、7～8月が平年比やや多の発生で、ほぼ前年並みであった（図1）。
- 2) 防除員報告では、本年は5月は平年並、6月にやや多い発生であったが、7月以降は平年比やや多～やや少の報告であった。前年は5～6月に平年比多の地域があったが、本年はなかった。
- 3) 福岡管区気象台が9月29日に発表した九州北部地方1か月予報によると、降水量は平年に比べ並または多く、黒星病の感染に適している。

### 2 防除対策

秋季には、葉の裏面や葉柄に薄いスス状の秋型病斑（図2）を生じ、子のう殻を形成し越冬する。また、りん片基部に感染した場合、そのまま基部組織内で越冬する。なお、感染したりん片や落葉は、翌春の第一次伝染源となる。

前年に比べ発生が少なかったほ場も見られるが、来春の感染を防ぐため、本年の発生の多少にかかわらず、秋季防除等の対策を徹底する。

- 1) 葉およびりん片への感染を防ぐため、収穫後から落葉期（～11月中旬）に2～3回の薬剤防除を行う（防除の詳細は、平成23年5月付け農業研究成果情報No.515を参照する。  
[http://www.pref.kumamoto.jp/common/UploadFileOutput.ashx?c\\_id=3&id=1033&sub\\_id=1&flid=42&dan\\_id=1](http://www.pref.kumamoto.jp/common/UploadFileOutput.ashx?c_id=3&id=1033&sub_id=1&flid=42&dan_id=1)）。
- 2) 薬剤は、散布ムラのないよう園地の隅々までていねいに散布する。薬剤がかかりにくい場所は、手散布を行う。
- 3) 園内の落葉は集めて、地中に埋める等適切に処分する。
- 4) 農薬の散布に当たっては、薬剤耐性菌の発生を防ぐため系統の異なる薬剤のローテーション使用を行う。また、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

熊本県農業研究センター 生産環境研究所  
病害虫研究室 予察指導係（病害虫防除所）  
担当：荒木、加賀山 TEL：096-248-6490

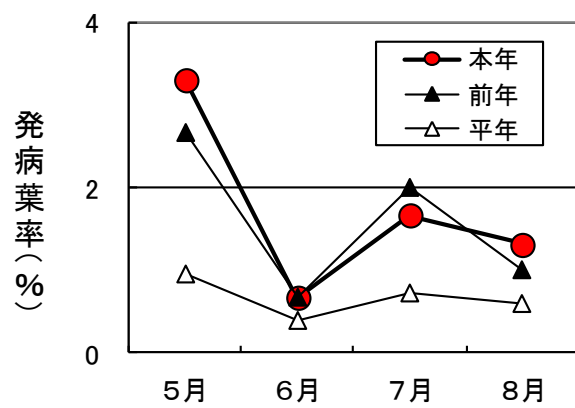


図1 黒星病発病葉率の推移

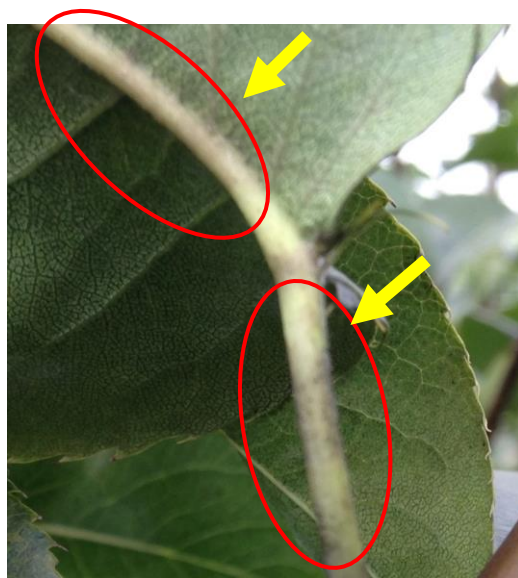


図2 葉柄に形成された秋型病斑